新宮山彦ぐるーぷ第２３４１回

玉置辻から山在峠までの道標等の確認

◇実施日　１２月１０日（火）　晴
◇参加者　湯川一郎、鳥羽真司　２名

１１月１４日に山在峠から備崎までの道標等の確認を行った続きで、玉置辻から山在峠までの区間の確認を行いました。

新宮を６時３０分に車２台で出発、敷屋大橋を渡り小井谷から入り山在峠へ向かいました。ここで湯川車をデポし、沖崎車に乗り換え折立経由で玉置辻まで送ってもらいました。

玉置辻を歩き出して１０分程先の丸太橋は補修が必要と思われます。今回、水呑宿には立ち寄りませんでした。大森山から下り、「この先ガレ　通行不能」の白いプレートがある巻き道分岐には石柱No84があり、これが最後の石柱となります。この分岐にはロープがかけられているもの、巻き道には踏み跡がありかつ赤テープが打たれています。目の前のカーブの先まで行き確認したところ、赤テープが続いており踏み跡もありました。今年3月21日に沖崎代表と林道大平多線の道路状況確認の際、引き返した大森山ガレ場にこの道が通じていると思われます。

岸の宿のある篠尾辻のすぐ先、切畑辻には２０年前に設置されたであろう道標「本宮・玉置山」は杭から外れ落ちていました。この後、五大尊岳（北峰）までの間で、標高７９０ｍと７６０ｍに倒木処理したいところがあります。

金剛多和では水場の確認はしませんでしたが、水場への道標が朽ち落ちています。また、金剛多和までの間にも、標高５９０ｍと５２０ｍに倒木処理したい箇所があります。

また、山在峠までには、設置者のわからない道標がいくつかありますが、大部分は文字が薄くなり読みにくいものが目立ちます。また、山在峠の手前の標高３００Ｍ付近にはシダが生い茂り足元が見えなくなっています。

（記・湯川）

金剛多和の水場道標

切畑辻の道標

山在峠近くのシダ

標高７９０ｍの倒木

【概要】

現在、当ぐるーぷが設置した杭の道標は、「水呑宿・大峰南奥駈道」、金剛多和の「上切原集落への下山路」、「大黒天神岳」、「山在峠」の４本です。その中で「大黒天神岳」の杭は、標示板は落ちているものの、プラスチック製（テプラ標示）のものが代わりに付けられています。また、大黒天神岳直下で直進してはいけない箇所には、「直角に左に曲がる矢印」を示したものが残っています。

なお、随所に当ぐるーぷでプラスチック製（テプラ標示）のものを取り付けているので、ルート判断に支障を来すような箇所はないと思われます。

行動タイム

玉置辻８：28→11：06 切畑辻 11：10→11：43 五大尊岳（北峰）11：44→12：10（休憩）12：35→13：17 金剛多和 13：35→14：58 山在峠